

自治体初 食品ロス削減にツール活用で連携します

Panasonic

GIT

CAINZ



横浜市

横浜市では SDGs の達成と脱炭素社会の実現に向け食品ロス削減を進めています。市内の家庭からは年間約 8 万 5 千トンの食品ロスが発生しており、これは市民一人当たり年間約 23 キロ＝おにぎり約 230 個分に相当する量です。(金額換算すると 1 万 9 千円)

そこで、これまでの広報啓発では届かなかった家庭における食品ロス削減の行動に働きかけることを目的に、パナソニック(株)、(株)コジット、(株)カインズと連携し、「ツール活用」による食品ロス削減の意識・行動の変化に関する調査を行います。

活用する「3つのツール」

「冷蔵庫用 AI カメラ」



AI 技術により冷蔵庫内を可視化
食材の使い忘れや二重買いを防ぐ！

(協力:パナソニック株式会社)

「鮮度保持アイテム・ベジシャキちゃん」



葉物野菜の芯に刺すだけ簡単
成長点を破壊し、野菜が長持ち！

(協力:株式会社コジット)

「食品圧縮袋・保存容器用手动ポンプ」



真空保存で新鮮さキープ
冷蔵庫内もスッキリ収納できる！

(協力:株式会社カインズ)

連携の内容

「3つのツール」を実際にご使用いただく市民の方(調査モニター)を市が募集します。ツール使用による食品ロス削減に対する意識・行動の変化について市が調査します。調査結果は今後の啓発や施策・事業の検討に活用していきます。

横浜市	調査モニター募集 調査実施・結果分析
連携事業者	ツール提供 調査・広報への協力



調査モニター
ツール使用 調査への回答

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



調査モニターの募集について

■募集世帯数：横浜市内のご家庭 60 世帯

※内訳(予定)

「冷蔵庫用 AI カメラ」:30 世帯

「ベジシャキちゃん」と「食品圧縮袋・保存容器用手動ポンプ」:30 世帯

■募集期間：令和7年7月23日(水)～9月5日(金)

■応募方法：以下のページをご覧ください

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/gomi-recycle/sakugen/shoku-loss/2025syokulosstyosa.html>

■調査実施時期：令和7年10月14日(火)～11月21日(金)(予定)



【参考】

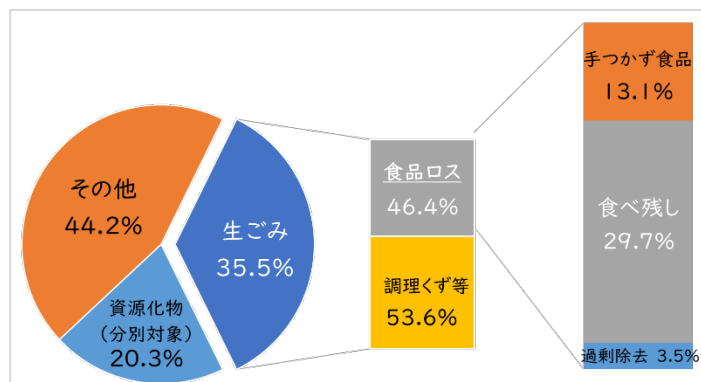
■家庭系食品ロスとは

家庭から出る食べ残しや、安売りなどで大量に買ったが使えなかった食品(手つかず食品)、野菜の皮を厚くむき過ぎたもの(過剰除去)など、本来食べられるのにもかかわらず廃棄された食品のことです。

■横浜市の食品ロスの状況

家庭から出される生ごみのうち、食品ロスは約5割を占めています。要因としては「手つかず食品」が増加傾向にあり、その中でも野菜が多くなっています。

食品ロスを減らすためには、買い物(使い切れる分だけ食材を購入する)・保存(冷蔵庫の整理整頓等)・調理(食材の計画的な使い切り)等、日頃から行動を変えていく必要があります。



< 燃やすごみにおける食品ロスの割合(令和5年度ごみ組成調査)>

■連携に至った経緯

家庭の中での食品ロス削減につながる行動に働きかけるツールを、横浜市が「共創フロント※」で募集しました。これに対し、パナソニック(株)、(株)コジット、(株)カインズからご提案いただき、令和7年7月に連携協定を締結しました。

※「共創フロント」とは、行政と民間が互いに対話を進め、新たな事業機会の創出と社会的課題の解決に取り組むために、横浜市が設置した相談・提案受付窓口です。

お問合せ先

資源循環局 3R推進課長 今村 貴美 Tel 045-671-2563



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

